八陵風土記四
1.667
2

横濱 谷富

本喜

今三佐

今様廿四孝巻二目録

一 我が思ひい魚乃仮切

高世乃玉撰法師
姫よ婚家すゝ母親ゝ

二 稜む玉ちゝ蔦蒲刀

若元ハ大和ゝ湾
分ゝ乃ゝ乃ゝぬけ侍ゝ

饗庭文庫

三 寒うらけし素丸

もゝてはそれなる丸の葉式歌
をづりでもすぐれる味ふ

四 れもとび和ずの入聲

後梅は花ごゝ咲ぐや人
梅ふるあ中のよいを

一 我が思ひの発句切

極石ふる大内山のいぬゐ方ふる水ふるふ同
じくわ吸ハさ〻ぬ松をもぐれる。松ぐも
雪もなぐしろふすぐ。まてする情のあとやこゝろと
がくのあ〻こはさぐまつてぼ果の乃場乃牡鹿松のこゝ稀よ
みとさ〻へこぐしの名べハが義の川ちぐりときふまつるれ
紙ふのきぐ丸と森ずるこ弁同ふ乃ふるこの裏でかぐう
ゑこゝいつまとよぐぬこやこ風信。江戸志のあるれ
男ハめるくたれと弘ハしやれハ御りるこ。ちゝ安ハとぐも
中でもドのトでもさりとちいやをとゆふハれ。いづと

を一かつり買ひ入なら仕出し。御ゆるしげのうさびん
ぞうのけてといてすづわのさいことごらうせよいけんぶつ
と商人ものおしやうをぴらびをかさもけらまーもぬうくうう
のたねよもらひけんぞうれど女のわくあふ白茶ところいてで
くくりすとぞえだくくとあでそれでぬけうれてうの事じや
といてり。おそれえ人張ぬげたれてげひくこいてでいすはぐー
ふ。金貝入のうんぐあよもうとまでとかーせ。けんぐんとちぐふ人今の
女は身ものまーもり。ちよもちんなやろぐんでハぬんもおいすつもー
きぬ雲上ぐう。中ものも上京ぬさんも長者町。むーー商せー
ん世をうらはせの仕がぐーふもうて。ちをうりせーあーきこ
ぐうの金張をぴていはぬ死後。御色海ぬちがぐーぴもうーは利

張まぐまりんそくふやうけて。内蒲へちこあ入てぴんぐふ
ぬ世りきこがるむすこれもんとまもうぶぞりとうぐらーの身
をたりこそけうと。小利がむぐやうとうんぜーとぞーうふ蒲
ふかりーせ。ちうせの蒲ぐ屋ぬるハぞうをわらふすりぴうろ
ぬ後ぬぐせーうんのこやすこ。せくんのざわしやまず。いちやをぬり
ぬとよぐぐず。だんをもれりうぐぬ。わちーわーちんつよもうれて
ぬりりのか物入すくかく。利張ハかをなりがなりても日銀で
をそれふあこんぐず。月銀でりぴやこでも海ぬくふれこんでぴふく
張ぐぬとうすこぬのたちーこちりこやりハのどとりしてとか
こけり。後ぬの身りちぴ。七八年ひこうこりいよりもうはうはもせびぬ
ぢめわりぐーやーの祝ぐひやうぴかこうこん人の事ちこうれ柳ふおも

うげとういち。まるもとぐさ。そうんろふなぐさ。つうこそ
ねぐそ。しもすあ。ねつくろ。ようくもあく。ぬんていけさうく。ぜく
ひよあつて。ようかさぬいとりれ。ぬげいすぐれてちやの墓。ふ
引のぐすなぐふせりひ。芋月を。ぬふそれて。十一月のあすぐ。
ちやんちんの所。ぬきまつりふ。仲人屋ぐんろうぬ。けこんでい
づくも。所よあいりれぐきとよ。ふいや。ぬりしすちん
そ。ぐらくしこぐのをれのぐやときくちぬそれをばうりさい
まるど。二十二ようそ。ぐんりの御山墓。さうやうぶうつてかく
うつてぐん。乳ふをちく。ぐやうもれ。ぬげハ張とぬと
で七拾八ぬ。すぐめちきたく。ぬろい。家でもかそれる。二条
乃お撥のうんあち町よりぬきもつりてちんとゆさうかさう

そく。ぬりふりられ。墓安千日の祥月ふぬげとろつりはく。ぬどらくとどう
のうんとちてて。ぬうすて。安ぐりれあも。人のあくるぐどかちて。第七どの
とりそれぐんちれあとバ。ぬよく。出入とのまぐかさがいりれでやぐそ
の所ちうけんちん。四ちつぐでどうそふく。墓屋のむすこぐ
びんけーたりふぬうぐいてあくも。月やとつけきて。町ものわ
たくいその母とあふちぐでいぬぐんめぐでタれまぐそう。されぐ
ふとうんそおくろてんうんをわりぬ。ぬとうんて。祥月さぐるかぐるも
ありぬあち。附平七ぐぐんいいやぐそんをそちんぐでぬるうふ。墓ことす
へすくてうきとのあくてうゆせすきとて。ぬりれぐ。墓ちんー
かくあぬすぐぐぬうぐぶもそくて。風と川せれふぬー。筏のあれ出ー
あぐぐぬふとりれ本のやいとぐ。そぐるもうとつけぐちいさい

かぐらづかすくまつてせうぶ。なつてろ食のぐいぐにうけさせ
ようひもあるこそうしつ〳〵所なぐさこふまつてせそぐとこ〳〵か
ほとをなり。まづかとうんきりハかうきうすくてぷもそあつうみいやうか
まぐあいさあすくまんくいつてわぷおさく〳〵何やく〳〵男い出てぷら〳〵
ふそとうすまきのぐく。きやうねかいまいてこぷきうわかさろく〳〵
わぐなとうしつく〳〵てそれとやく〳〵てぷりとうまいつがぎぐんぷうほれ
ふいくげぐやぐ。どんなをのよぐそうちくすれぷれとくてちんぐんと
てぷおうくうのかもく〳〵れく。年七これきりのすいれく〳〵ぷきくぬく〳〵も
ぬ七れく〳〵もとすきうぐべ〳〵とぐてこいせぐ。ぷやすくてちんぐんそ
ふぐやく〳〵をぐぐれれ火のそうをかくすくてあううとおさんく。
さわとはおとすすすくすきうく〳〵とぬぐく〳〵ぐ。あのいさうを

ちう〳〵ふうきうとうんきうきうちうつの義とぬのれすまおうろぐうふあぐ〳〵
つけてぷんてぐざれとちるくれうろ。年七ちるうぐうちれう〳〵。ちうぐさ
し所てうづとぬれうんうそまつ〳〵そうはぷう〳〵人年七ぐかうれ
えいのてあぐわぬをうとうてたあいきはいぐ。ちのうさ義のうれ
すふいうくぐうう〳〵義いうんぐうつれかとうう人
ぐうひうり。ぷ三〳〵そうといぬよくうれ花ひう〳〵つそ義うて実。
うやこう〳〵ハわんぐあいぐかうるも男ふわぐやうをいうれねぐ。
ぷ男とれ〳〵かうあひうふひうんをやう〳〵とすくて義うぐ。ちうさ
せるぷ。くびすぐのうぐぬく〳〵ぐうのうう〳〵ぐう〳〵ふう〳〵
ふう〳〵ひうさぐかのぐれやぷうりとうそ義う〳〵義ぐめうれと
ひうこみうもう。こんうんぐいうとれううぐぷうれみうひうんを

つもうあてぬつふめさんつこハぱんぐるこ。せこけのびーしまあがわと
じこれをれまぐこ三千の女ゆうざうぷふりく桃ゑこりてハわう
され〜どぷみょうぐんぢきみのうこう。辛七こぷりそめれぐぷそく
人の事。ぷいりーせこうりるいるのり。しすめとちうげんいこ
さねぐぷぐひよ女すー男ゆ。ぷりこう老女ぐこのこぐか
こんぷへむこーたこ歩ーゆーえせぐすみこるのり。しすめハづこ
へもしめつせぐこるここーやちうげんーてこぷゆしいう〜
ざうこぐんこうこちうけらる。辛七こるりこそこいうこぬけ
んこりせぐこるこそれハぐりてんれのここぷぶんいこ歩ふ
だうここあちーかーりつそちまい移うふくこいこるこんなりて
のりハトくこりんるふあこ、かまい移ゆぷそここれるふのこぷこ

ゆむすあふりんきーておうこハよーゆこたるけのふもうゆ
くぷここりふちこぐゆまハ移んもこいるりちくーしゆこれこたこへ
ゆ出ーてもすゆぬゆ。ぷぐーりてハくーくのわくこうぷせんへ
ふるーここぐせんゆりぷ。ゆこーぐこ高こゆ歩ーりこーこ新くゆこに
こぷこるぐのここぐんぷかこのこげあへ底こんしここここ口ふいん
あくこぬくここ歩ふこせゆさゆぐでりこここ一ぷんぐーふちーこゆ
あふりこて。歯でかここりここまねーこりぷんこそれゆぐでりこ
てごこりこと入てかいでんこりぷつぐここうけてあーこふあ
りこーこりぷ。こりびのつありぐーて糸すこりてんせこりわーゆり
げびたすけこりーてぷゆぐーもこそんれぐぷいるくーめゆぐーまこ
うへぱなんこもありこれめゆハげゆーゆよんこーぐこんやま

まんじゅうは身とすろくろわかのちゃあんぽぐふぞんこうて
もぐもぐよくをいてもをつよきとゆう。命にをもしかれかてうえぬ
男れ侍並びにときうてぐ。ぐくんへこれでちぼーめきりもんぐちん
ドけるふさりそそハくぐろそうめちゃくさぐうざハさのをゆを
ひとけまんなるわ〜ぶをれのちじどくぐゆくうとわんどぐまれ
をかるぬをんぐめわぐをかるわふざーふうきなぐめやぐわさ
ゆーやぐ身はあんとうひそあーぐぐーわんれわやをうそ
もかうゆいもすめが。一代つをやーつんよかんどれをのなくてハ
すぬぬすあうぐそれぐなんとうぐにうーついをてぐぐーて
をうてて人にうぐ身のこうぐんをうーをんもかをうーぐれ
をどうをくさわぐ。人よどんこうもすーずぐううーくと乱とうぐ

らいけるぐ。平七ハ秘後ちあんのうへなりくむすあーをうげん
のちゃぐうぬうちにをゆのをのぐをくうい出てぐまこうの教を
ゆすあうやうハかくてずぐか我かーくとぐ為へて教のこうう
ぬゆすきなるうりうりとしすびておこるいけぐぐーくもくうを
をーねぐこうくーをぐーくくれうーぐげんのふやぐい我くよふぐう
てんーてがくをかうーてうろうときてぐ為のうをうをーて
こうぐうすずぐんゆのあうかをぐうわんぐうふいをうをーハくを
づの事をぐー

二　秘じむちろ蔵蘭刀

すゆぐやくをなんゆとかーみーハすぐをうけのむーぐ

ゑの家中ふ[illegible]ゝ侍[illegible]
如よつ孫くこゝくこゝて[illegible]ぶれさこ家中ゐと、それなくぷん
ごくふもさ作くて人のゐハかくぐゐぐき来てそまけろ
歳のこちも御家がくそこゝろびけふぐ、かこけのまけを
わさゝずかゝせ。同じ家中の死ささ房さ所。金子の
ちかこたぐつふきんといとまんがぎ。ふてさゝ也のちぐ。月と死
もひゝりもなぐゐず。ちぐゝも公用ハ中ハゐちくゐろく来
ちゝ。ちくるふ大ち屋つこゝ[illegible]ちゝて。新系ゐわつす
ろゝふぐ川岩ちつ。[illegible]ゐ[illegible]ぬ一家中のわゐゝゐと。一つき
のでゝふて世ふ対先ゐ[illegible]ふこのゆ[illegible]ふちこちて
て。ちんていい流ゝぬちゐゝ。ふたくせゝふこのゆりづゐ

ぬ刃とかくもゆぼゝめゝらゝせゝもとそぐこるゐぐぐん。祇ぞかさ
ぢけなくハ石ずれぐも。御ことゐりすいくくわれぐ。ゆ也
トさゐぐゝ。なと文御ゐうんゐわぎゐそのこちゐ。ちゐぐ御引
まゐゝくぐさゐぐゝ。ふゐんぐとゐんて。極ゐ也若ゝゐふい祝ん
ぶゐあるふきゝまゐさゐ。それゐ也ちぐゝ。そぐゐゐゐまぐ
くぐゝの関ふ侍ゐ也ぐゐ。清沢佐ちゐ。てのわゝゐゝと
ゐゝ。ぷゐ行ぐゐ也ちゐゝんとゐけられても。ゐくぐてんいさされ
まゝぐきぷふのゆちんていい。侍ゐゐもゝこゝゐ也ちゐれ戸田
ゐゝこのわんゐまぐゐゐて。すゐゝゐつよびくぐゆんのゝゐふこの。
ゐ川てゆゐせゝれてぷいゐゝこのふゆぐさわゐぐ。ぷゐじゝゝゐ。ど
ぐあけゐふ。岩ちゐ乳ゝとゐちて。ぷけどゐゝぐ。ゐ打ゐゝゐや。ん人の

ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。あけぼのの
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。
ちゃうぎょうそ。ぎょうのゆうべ。ゆうべのあさ。あさのひる。ひるのよる。よるのあけぼの。

けつこうゐ御ちんていのうへ八ぱ様とも同じ事ゝやくろ出祢
んごろゐされようぞ。まれ〳〵くとういふんぷ又がんゐんの母ぬ
不。うんどゝわくゝであらふとゆしい〳〵ぷかとおとゝつてどうく
さいうやうゝも出こゝろまくせいづともこれよりござれぞりゝや
はいまゝざれよまつろかゝ母ゆゝとゆいういたくゝゝうゝていさ
れぐゝ家ちろけゝゝさうしゐふちそれ母わせじいやゝれめ
いゝくゝいひきゝまんもちゝれびとうづゝゝふにげゝろゝゝや
一ぞたゝゝいまゝご義孝ちがげんゝとゆりぬ同ぶそまゝぐゝと
ゝゝつけゝ。むゝんよあるべきゝろとなんゝとゝとゝぬや
ゝそつとめけゝふさのすけふゝとけゝくきいてゝちわやゝは
むゝ移んせんでん義孝ちかりゝてゝうゝいろちよそでんゝその

りゝんかとゝんつけゝゝゆゝぷりと我くゝよりわふぶんふそのゝ
てゝくゝゆでゆゝくゝいゝうゝやゝせゝ。ゝろゝゝゆとゝ母ちろふゝゝられて
ゝゝやりゝ又いやゝやとゝうゝで四くゝろゝて。ゝ母ゆゝて我と祢んゝろ
せんゝの事。ゝ母ゝても後まゝゝきちんてゝぷんそゝこなゝゝ
ゝふゝひわゝ不ゝのちゝゝめけゝとゝのふぶんゝゝこのゝゝ。我ゝそゝと
家ちろよゝゝゝちゝゝゝ不。八まんかんゝんゝゝゝゝゝ母ゝゝ
とゝろゝゝゝゝゝゝゝゝ後孝ちにゝゝゝとゝいゝてゝろゝゝてゝろ
ゝゝとゝちゝんゝゝて。義孝ちゝかゝくゝゆゝくゝふ。義孝ちゝゝゝふゝの母
ゝゝがゝんちゝゝくゝゝんゝてゝずゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ命とゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きどぺいりめなーへもわるやぷやしいきうめーつたどろうとや
りてぶーの人ゆうてちぎうくとれて命とすてぬちあんせ
いつき。死どむ。ふいうわかの事ろうぐさやさかうてもうめー
きんゆくかくさ出ーぞらゆちなうぐの川と寄ふせさうゆな
ぐうーあ川前茶ちいつやう。されどゆーの命ときうの事ろ
紙タやうわくといてぐきて。分とやすくぞんぜよ人のるぐ
つぐふハ歌のあふ命とすつる事。ちあんうん銀ろよとうぶ
銀りくず。きかの事ようぺ。ちつよとめぐくてをーやぐふよ
ハ命なり。命ゆくてたたち五のゆくうなのとろくはくさん
や。紙茶ちつふちぐくとなくられくぞその方と命ろう
せーくたのわやまり。五ちけよをぷきてうぐくーく

命とすつる事。紙のぐーふあくぞくくこーぬけどうふ考
わくくてもぷいくふ同ぐしうん銀ろ仲るなれどさくく紙ぐ
くくをちくぐさうくるぐもどちぐくくをかゆきも。事
ふうてぷりふくくき事せふあめーゆりーぐのぞ茶ちよ
いーゆとのくくぐぐうん人へのわくこうとそのせつよいくさうぐーと
ふくく茶とけくーまちふふさのすけもとく。門ゆやきんあつ
て命とわくーませのくとあくうん人へさんぐろくく紙ぐぐさふあ
ぐゆくうんいいくーされあゆりて。ぷ事ありとつひうもも
まぐくかくうふ。茶ぞを五方くへわんぐうとくくうたり。紙
ちよれんあつてくふいんどぐ茶ちつよちぐくとるくーくへ
を方れるさけれぐうふけくうぷうれどぶちんてのあく

それ〳〵我とそこくにこころをつけ、ゆびつさまでつゞくふねどもをられ
ければ、我身ゆんどうもこゞさふわ〳〵どと、やはりいさんのこゝろをせいふ
ゆへにけつ、ふさはすけ殿ハ我身すとて、うびんよりはじめ、ちすまハ
ぬちんていよりとれこゝろぬこゝやれ、ゆへにおごりとあり〳〵ちん
ゆ〳〵ていろふきこなくも命とかゝ〳〵ふ、ゆ〳〵くの出ちあ
んけちうんこゝねずかたちつさいぜんようわとりくみ、きんの出ちんていと
さて〳〵ゆくよつぞ海〳〵てけ〳〵こゝろ〳〵、これよりとすぐまつねろくさ
へちんごみつむわんとこゝくさんと、つ屋よおさめこゝ、ようちこけつ
そこりつふうハ何事もたくまじつわせきけられトさゝべ〳〵と、
いつ、義平をとかくふ命とすろこすろれこゝおつかさ〇て其ごん
ゆきまろ〳〵ゆ〳〵て、たいよりきんていをかこゝすふされすけもい

りこなくつ、ぬぶんこねころをうかゞいて、ゆすゝうちとのゞけ月
日とこゝきろふ義平をゆ日ごろ、れ拾ゞ病ろたりこ、ゆ〳〵かまり
ていつこのゆこゆごんすゝふきこに元けあて、七月三日ごこり
乃業さをふ秋のこゝりゆゞせゞゆゝきこ落の命ゞ〳〵義平た
野とこゝりのいこゝるこゞずいゞんかのゝゞりとはこ〳〵あゆこゝろ備
とまゝ〇こゞさゞずんのいこゝるこ、一七日よゝあゞゞ御さゆこゝと
けちゞごんこゝて、ゆこゝすもゆこゝりこゝよゝまいけつこゝふこゝ九日
さいこゝるこゝねこゝろかこゝこゝのハ、でゝゆこゝりあゝまりけいこゝのよ
ゝ、義平をかゞゞくゝろかこゝこゝあこゝこゝ、ゝ二人こゝすめこゝゞこゝと
ゆこゝ、こゝこゝこゝこゝゞくゝゞ、ゝ人こゝねこゝろこゝこゝこゝこゝろこゝんゆゝ
六月六日のいこゝ。こゝゞいよゝゞゞゞこゝこゝゞこゝこゝゞこゝこゝ

とよだらひご我母人をけいがうして我わいそ〳〵のらくん
ぎをてゑりんす。ゆゑひわぐ〳〵。ちぐ〳〵のけうんとかんうん
ゆ〳〵なわ。ぢつの母人ゆ〳〵だ。ぐゆでのぎりとそうつゆよ
とよんどねどもなさぬゆ。れ。ゆ。ゆ。ゆ

もなく。爰ん[illegible]にもとよりぞ。苦辛たゞ[illegible]ふたゝび
つくゞいとゝ[illegible]ゝどうゝ[illegible]てちらげぞ。あくふさのゆうけ
ばをこれまぞ御はくみわゝ[illegible]ていわゝそれわゝそれ
の御さゝゝゝんでゝゝれゝるゝふけゝざゝゝとゝいえだゝく
苦辛たゞゝひとゝゝのて。我ふとゝゝろふゞゝさゝ。ち卯。苦辛
ゝ[illegible]ものゝて。我ゝゝびゝきゝとゝゝゝむゝゝくゝゝゝあゝれと
いゝぬゝんゝゝゝゝくゝゝまゝぬゝものゝもゝゝゝゝ

あけて。身のうへぬるかとえーくんこ幸。かうひぎとかたら
ふ。さうい所のさうやう命のあやうりそーとーこれぬいづまと
うへ。負けおそろしたやこく。かーろ異人けもとあのあろい
ゆへなり。其くんでやうこ京のもづうたろ小ろんちーべて。ゆーくへて
ーさうふあーーだ禅ちのの方丈。おげ食のーとーらつーさーのちげ
いぬべー。実でいろーこれどーて。おまちいーものけんこもけめわいすわ
きづのにろねかどかーんーやうでゆーれまもふーこ負められ
おなぐーさみ。おもーーろふへとかーーとーさーーやらぬう
大小にろーーだーどやうかーーどんと十女でーろーまもふーだを文でき
せーとーとーーーーーすんげきまもふーーーーー

きゝふぢうぶろそこびとどもいて祝ゝをのぱぷやの発めよわゝぬ
とゝくだぷやなりきそいつものかゝてゆゞけっぷ見舞のさゞ
わゝゝれゝはじめぞうーぷみゝゝもやさゝくちゝひてれまけふ
びんよかゝゝそゝぷのちゝきてゝゝとゝいつる弱冠よめてだむう
しれそゝとゝゝを面さゝりけっ事ぷ。ちゝ人ゝちゝくちゝてゆう
事ありけいせいをかゝりてふつゝくですゝゝぬとゝぷゝゝ
ゐいせゝうハやさゝくあゝゝうゝてがゝこゞてせぬとよゝこの
できゝをのとぷゝちゝのクんわゝれやゝされきぷゝぷゝのくきゝて。
時ゝゝゝゝくだぷずんせいをしゝゝも今もかゝゝねゞぷ為すす
ふゝちゝきわれだぷよゞゝされかまゞつとゝあてゆめゝ女郎ゝを
ありぷゝれ人の仕合ゝ人ゝゝあゝふきゝまゝゝうゝ。

のタざゝんかゞのちゝきぢずんごふにゝゝ女郎ゝゝゝ。ぜんせいぷゝふ
やゝゝゝゝゝきゝをゝけちゝゝれどぷゝゝでちんだゝ。女郎ゝた
ふゝとゝゝゝ分ゝゝゝうけてゝぷゝゝゝゝうゝの事ゝゝてゝぷゝ
けゞぷ。ぷゞてけいせいの孫ゞひよ。義のわゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
いゝゝぷゝくゞゝゝれ事ゝゝふわゝずゝてゝゝけゝのゆゝてゞぷゝんのトゝ
きゝゝ一生ゝゝゝんぱむ移んゝゝゝふゝてゝゝ事ゝぱぢん
せいのゝてゞゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とさすのせーとびとろとふ列三十あしとせどせっらよなく
ものなんでぬいもやといとものいそれぶいととろうーて
ととめてすくめけこれとろくで巻物を銀でかくます
うのすこれうさかぎーねどうんが泛てもうめいても宮の
中うーけのふれとろとこのせふハねせびねうーたい
うすりすべてえんがうーやとわくみハこうくおしいふを
ゆをーとやうゆくうりきりくたりうゆくうり花のわう
やりそ銀でぎゆうよ新の氣よりっやうんどりてまいうゆく
うくのうるゑうくぬとのたりの同じ事のうーせけんへをれ
ぶと金銀とりて新のひとなぐうしうがよいとねでうれ
みーもこうくの事ハくよりてうゆぐーよをーぶらけ花

うー新よえぐうぐせてぎやうぐうふせみりんぐうふのう
てうーいてーぶ酒とのませーとうるおやちのくぐれで
ところわれなり。

四　おもちびえすの入舞

ひあと今ぐんえーて出ーハ美うとわとこぬまとこう
みてーもなうけめーとなれきこうわうれなりくれきん
そどいうぐりぬさのかぐーのぐーぐてのゆめのうろい四
人の金銀とうれやうーよかうちぐてーぐーの南ー
ぶちんでの節られ今ハ印ーうれかうろれなげぎたい
ぎうとうーよひうわ月やーあれーぐーさうーふやう

とたなさぶーあーせををうーいぜんよていーの事まちつとゆつ
がいふるるれでーそあふうちんぐいとかーにーてわげてふ
其方をちくてんーてぷおやあふ（おりひとのこーぬ毛ふ者めてう
今うをてーてぷぐーくうめハと。年ふりのぐーくーとるー
けいさいぐーいの事とゆひ出ー。どーこまをろやーせめてハえん
か時のちくーうをぬをちいでぐらあうめぐーこーとたて
られをうをむりれわーんぐーこひを紙こうちーねをたう
どのおふーろ食ハをこぐをハあうをおーふかうのと。ゆよおも
へどなんのワさうーぐねまんうーハずこーもかこづういをれ
すんがごふぐるふれめハさをまんまいと。すこたをうーあど
をのくぐ六ちくーのかこいうー所よごちん食のどぐーやうたと

ハんをちんうやうんするのいとゆてうーハこれがーふをし
こちざいふ内をとあーんぐーこのおいるを火ひーのうをんーり。
ひーあろて毛れりる時そくーこをあぐーんてゆぐいーずをふ
い事ふををいるがを世の中。うゆむーやうよあいて一日もを
だーふーこげ。引んで毛ん仕をりんどーめのをざーひうれーさ
ふ。年ーうのなーこざをーこをけーそもくーぷあーをん
ハ。さ内かさをーんの年ごろごゆびんゆうかをーーちひとの
ゆーーが所ひんさいの稲ーこゆくーおいーゆをトこれてぷている
くこへ所ちうをトこれまーこの新ーこちハまーーまこぐーとかく
ちーーーあと新とたてそまうーかーくーとらめーーをかと材そひ
こーうーとひくーこうーゆーこのうちとんぐーこれ九海

といふ〜るこゝはうんてねどもちぐらは四とあらはようらせて
ちんぐれをとでうれしでそうんすもあるうかうろ〜ろ〜も四きまの
うろとぐ〜あついめをさせびいめをさせびゝ寺まつわだうを
させゆ〜ていしものあ〜ま〜はけうわ〜ぱらひでなんぐ〜ぬひう
しふ〜う〜て氣がうろ〜ぬとをいとれどぐ〜こハ泊れ馬つれ
ど。ぱこ〜ま〜年〜ものうれのうれよさ〜いでぬがよござうと氣
とこ〜四されぐうぐ稼ぐうぐ家れぐうぐ家ろ〜ろ。泊ぐ月て
大あきんどのこがいぐこあつきてよい男よぬさらるうやを
のふうん方れ更れとうけてのぐうぐ毎人〜のおうびやぐん
あ〜うく〜ぐ仕合て。ぐ四ぐ泊う〜てこがぐでれうろくしう
しの所へうぐひ〜ぬぐや七八年の四ぬ世ぐかぐうの

わかゞやゝ〈に死れて。おとこ〈ぶんさんしてがつくろもよごれて
まのあいかたいぎ。ぞうれくまなつてゞぞうこゆれこゆ
ちゝずこれこゞゝざ死。十ちろこゞぞうんよすざさけゝぐろい
ふ。金銀とつゝこれて。ふ銀をぬきハ若ふゝしてこん死めれ
ゝ。ぞういゝゞのわゝ有へハ。せるゝ〈ふわゝずすゞ業うゞ
ゝ。ぞのこちらつけ。ぞろて嫌ゝんのくゝりゞ。わゝんどのふゝ
ア〈ゝゝ。ぞア〈でゝわゝゝせあゝれゝゝゝいゝろれど。百二十と
わちゝ死ゝせゝちゝ死てゝ濁ゞ死ゝと。ぞとゝてものゝこ
こ由ず。たゞこゞんもわちゝ〈ゝ川ゝせてゞこゝつくゝとゞゞ
へゆゝこも梟でたゝゝゝ〈ゞ。ぞちゝんはにこゝゝやちゝくゞやゝい
やゝゝくゞゝぶんのわゝゆゝり分ゝこゝこゝ〈てゞわふのゞちゝわや

のゞちゝもゞかこちアゝく。ぞゝ死ゝ母〈のあゝゝをゝゝゞ〇ん
ゞゝ。ぞゝゞゞくゞゝとゝゝくゝれゞ死れゞ。ぞれゞ人ゝ語ゝちゝゝふゝんゝさ
ゝ由ゝゝゝゝゞゝゝゝゝたゝくゝとゝゝこゞ〇んゝ。日紙
とゝ〇由ゝふゝわゝさゝゝゝゞゝゝゝにゝゝゝゝれゝすゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝかゝ称ゞゞゝゝ川町ゝゝあれゞゝゝふゝんゝゝふゝゝのゝ
あゝゝれゝあゝゝゝわゝゝゝゝくゝなゝゝてゞゞぞゝちのゝなゝゝゝひゝゝゞゞい
ふゝゝゝゝゝゝゝくゝふゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぬ。一度(ひとたび)まゐりたりしかども、いとうとましげなりしかば、
その後(のち)はまゐらざりけり。されども、なほ、ものをふかくこそ
おもひいれたれ。まづ、毎人(まいにん)、かりぎぬ、ひとつ、ひらりせ、こくだん
たるぬふものあり。さわがしくはなかりけれども、三人(さんにん)、
ひとつ、せこ。ぬすびとなどこそ出(いで)たりつれ。神となりぬるこそ、
しぬすびとなりけれ。まづ、毎人(まいにん)、ものもいはでさりぬれども、我(われ)ぬ
ぬふものあれば、ものもいはでかくまでぬとて、ごろみ給ひ、
ものもいはでさくなくなりぬ。ものうとく、ものうとく、
あくにんなりけりとぞ、ものいひける。毎人(まいにん)のゆくへをとひ
ければ、ものもいはでなりぬ。くふあそびにまゐりて、おほあしにて、
かりぎぬ、ものこづかひ、ものこづかひ、ものこづかひ、ものこづかひ、
さいごの所がんぐわう所ゆきぬ。四一こん初びとを
まゐりたりしかども、成りけれども、毎人(まいにん)おも
しやゆゆしくわやゆりとくやせもてこいめいぶ
ぬわふものさはよろづ、ものこづかひ、ものこづかひ、ものこづかひ、
うとゆきんでものもとまりぬ。ものこづかひ、ものこづかひ、
のぐこそ。其(その)方(かた)あるものもあるものもあるものもあるものもあるもの
たまものもきまぐきこづかひ、ものこづかひ、ものこづかひ、ものこづかひ、
ぬ。ものこづかひ、ものこづかひ、ものこづかひ、ものこづかひ、ものこづかひ、
まものもものもものも

横濱
谷富

さうあいうそうえんしてあるべきことにあらず。かくもつひにうまれそこなひたるめがぐるきたんこにをるをばうめがらだにちうげんしてどうもれ無人へこうりくをはくさんとしてそもそもなるべゆづりてのちひよりかくすべく十たるつゑかとちがくゆんぼうきこめくあへりのちぼうひいつもおろうや。もしうれしあれこうくわ〳〵無ゑうちうて地うるべゆう。うどれなきいうすべらせぬうんかぐ句〳〵きもそ形〳〵

今様廿四孝卷二終